

イソップ物語の『3人のレンガ積み職人』と目的と目標

中世のとある街角でのこと。1人の旅人が3人のレンガ積みの職人に次々と出会う。旅人はそれぞれの職人に「あなたは一体、何をしているのですか？」と問いかけた。それぞれの回答は以下の通り。

1人目の回答：

親方に言われてレンガを積みされている
なぜこんな酷い仕事を続けなければならないのか

2人目の回答：

家族を養うために一生懸命働いている
仕事があることはありがたいことだ



3人目の回答：

皆と力を合わせて、後世に残る大聖堂を造っているところ
歴史的大事業に参加できるのは素晴らしくまた誇らしい

3人の職人にとっての目標は「一日に〇〇個のレンガを積む」とか「失敗や怪我をすることなく、丁寧な仕事をこなす」など、普遍的で代わり映えのしないものと推察される。

一方、目的の方は3者3様で、

- 1人目の職人 → 自分の目的が無い or はハッキリしない。
- 2人目の職人 → 家族を養い、生活の安定と安心を提供する。
- 3人目の職人 → 幾世代にもわたり、多くの人々に貢献する。

「たくさんのレンガを積む」という目標を目的と勘違いしてしまえば、1番目の職人のように「酷い仕事に耐えるだけ」の人生になってしまう。あなたはどのような存在でしょうか？（召命について考えよう！）
そのような自分をどのように活かしますか？（使命について考えよう！）